



第 38 回卒業式挙

3 月 1 日 (金) に第 38 回卒業式を挙行しました。卒業生 270 名 (男子 97 名・女子 173 名) が、新たな道へ旅立ちました。式では、在校生の**及川未侑** (2 年・一関市萩荘中出身) さんが、送辞として卒業生に感謝の言葉を伝え、答辞では**松本裕也** (3 年・逢隈中出身) さんが、保護者・教職員への感謝の言葉と後輩への激励の言葉、自分たちの未来に向かっての抱負を自身の夢に乗せて話しました。式終了後、卒業生によ

るサプライズの合唱で式場は、感動と涙に包まれました。ご臨席いただきましたご来賓の皆様ありがとうございました。保護者の皆様、誠におめでとうございます。そして、卒業生の皆様、それぞれの道で、輝かしい未来に向けて羽ばたいてください。いつでも応援しています。



同窓会入会式を開催



卒業式を控えた 2 月 28 日 (木) に同窓会入会式が開催されました。同窓会長の**郷内知明**様 (2 回生) ら新会員への歓迎の言葉として「縁を大切に」と言うお話をいただいた後、記念品が贈呈されました。新会員を代表して**菅野遼紀** (3 年・六郷中出身) さんが「在学中、同窓生に支えられ高校生活を送ることができました。本校で学び得た知識や経験を發揮し

て社会に貢献し、また、今後は同窓会の一員であることを胸に生活していきます」と、力強い入会の言葉を述べました。お忙しい中、ご臨席いただきました同窓会役員の皆様ありがとうございました。



ジブチ文化を知る

1 月号でインタビューしました**COFFEE&SESSION「PABLO」**の店長**半澤由紀**様から、「友人で海外青年協力隊に参加している方が帰国し、お店を訪ねて来るので、交流会をしませんか」とお誘いいただき、生徒・教職員が参加し他国の文化に触れました。



ジブチ文化に触れて

曾根 遙 (2 年・亘理中出身)

2 月 13 日 (水) に本校近くの喫茶店「パブロ」で、海外青年協力隊として 2 年間ジブチ共和国で活動されてきた、**上代佳恵**様の活動報告交流会に参加しました。ジブチは世界一気温が高い国で真夏には 50℃に達する日もあるそうです。上代様は、裁縫やデザインの技術をとおしてジブチの女性に対する支援活動を



されたそうです。お話の中で、国内でも海外でも「コミュニケーション」は大切だと教えていただきました。私はこれからボランティアを通して多くの方々と触れ合い、コミュニケーション

SYD ボランティアで表彰を受けました

2 月 10 日 (土) に東京都渋谷にある SYD ホールで奉仕活動部が、表彰を受けました。「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰することを目的とした表彰で、奉仕活動部の数々のボランティアへの取り組みが高く評価され優秀賞をいただきました。関係者の皆様ありがとうございました。



SYD ボランティア奨励賞

「優秀賞」を受賞して

佐藤陽向 (2 年・岩沼西中出身)

SYD ボランティア奨励賞「優秀賞」のお知らせを受けたときは、嬉しさよりも驚きの方が大きかったです。2 月 10 日 (日) に東京の SYD ホールで行われた贈呈式では、表彰と同時に活動発表を行いました。

出席された皆様に私たちの取り組みを紹介することができました。また、他県の方々と交流し、被災地の現状をお伝えすることもできました。今回の受賞を励みに、これからも精力的に地域に根ざしたボランティア活動を続けていきたいと思っています。ボランティアにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



海岸林再生プロジェクト「植樹祭」でお世話になった、オイスカの浅野奈々穂様にインタビューしました。浅野様は、神奈川県相模原市出身で、高校在学時に国際協力に興味を持ち、卒業後はオイスカの専門学校に通い、現在のお仕事をされています。また、四月二十六日（金）には、来年度の「植樹祭の説明会」に本校に来校されます。

公益財団法人オイスカ 浅野 奈々穂 様

Q 今のお仕事を始められたきっかけは？

A 高校時代は部活一筋だったのですが、高校三年の夏頃にお世話になっていた方に「本当にやりたいことは何なの？」と言われ、しっかりと自分と向き合って考えた結果、国際協力に辿り着きました。

大学受験をするつもりで勉強していましたが、早く現場に出られる道を探し、見つかったのが農業を通じた国際協力について学べるオイスカの専門学校でした。専門学校で学んだことが今に繋がっています。

Q 今のお仕事の楽しさや魅力は？

A 魅力はやはりオイスカの組織の大きさだと思います。国内外問わず、いろいろな方と出会うことができ自分の知らない世界をたくさん知ることが出来ます。また、海岸林再生プロジェクトも魅力です。現場にボランティアに来てくれる人たちが業種や年齢に関係なく、楽しそうに話をしていたり、クロマツの成長が楽しみと言ってくれたりすると私も嬉しくなります。

Q 今のお仕事の意義は？

A 四百年以上、地域の人たちに大切に育てられてきた海岸林をもう一度造り直して、これからの世代に繋ぐことができることです。

Q 日頃から心がけていることは？

A 誰に対しても自分から挨拶をすることや人の話をよく聞くことを心がけています。

Q これから取り組みたいことや目標は？

A 名取市の海岸林を「名取市民の森」として市民に親しまれる森にするにはどうしたらよいか？高校生や大学生のアイデアを取り入れながら考えていきたいので、高校生や大学生と交流できる場を増やしていきたいと思っています。

Q 北高生の印象は？

A 元気で素直な生徒が多い気がします。海岸林の現場に来てくれた生徒の皆さんも、大人相手にしっかりと話をしていました。

7 本校生にメッセージを！

A やりたいことが見つかったら、他の人たちと違う道だとしてもやりたいことをやってみようと思います。中にはやりたいことが見つからない人もいます。でも、だからといって焦る必要はありません。やりたいことが見つからないのなら、どんなことでもまず行動することだと思います。いろいろな経験をすることはとても大切なことです。海岸林担当者としては、皆さんに参加していただいた「植樹祭」で元々あった名取市の海岸林全長五キロメートルがクロマツで繋がりました。でも、木は植えたなら勝手に育つわけではなく、人の手で植えたものは人の手で管理をしていかなければいけません。私たちは植えたマツが森になるのには長い年月がかかります。ぜひ、皆さんもその手でクロマツのお世話をしに来てください。お待ちしております。



みやぎ高校生フォーラムに参加

1月26日（土）に県庁で開催された高校生フォーラムに参加しました。大きな声で精一杯発表している高校生の姿が印象的でした。本校からは生徒会役員が参加し、ポスターセッションで、本校が取り組む志教育について発表しました。



高校生フォーラムに参加して

生徒会長 半田耕大（2年・富沢中出身）

今回参加させていただいた「みやぎ高校生フォーラム」では、私たちの志と、地域貢献をテーマにポスターセッションを行い、代表校のステージ発表を聞くことができました。本校でも盛んに行われている地域貢献活動ですが、他校で取り組んでいた「高齢者の介護実習」や「障害者への支援活動」などとても参考になりました。私たち高校生が、地域に関わりながら社会における自己の役割を自覚することの大切さを感じました。このような機会を与えていただきました皆様に感謝いたします。



大震災を語り継ぐ北高生の集い

2月19日（火）、第5回大震災を語り継ぐ北高生の集いを行いました。これは、東日本大震災で犠牲になった方々を悼み震災の経験を語り継ぐことで震災の風化を防ぎ、未来への教訓とする。そして被災地の復興のために、私たちに何ができるかを考える機会とすることを目的として年度実施しているものです。今年も、「自然災害から身を守るために」と題して、仙台管区気象台気象防災部次長の永岡利彦様に講演をいただきました。本校で取り組んでいる防災教育にも通ずるところが多く、大変参考になる講演会でした。講演の最後に



半田耕大生徒会長から「今回の講話をおし、改めて震災が残した傷跡を再確認することができました。また、この震災を風化させず次の世代に伝えていくことが私たちの役目であることを自覚しました。」という御礼の挨拶がありました。ご多忙の中、講師をお引き受けいただきました永岡様ありがとうございました。